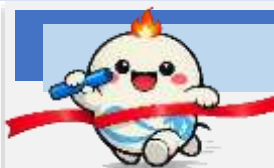


一隅を照らす山と野と渚の教育



今日も運よく生きている

総務課長 俣野 年宏

先日、親父の初盆を終えた。今年の1月にお世話になったお寺に、法要を依頼し、親族への案内やお弁当の準備、当日の対応など、慌ただしい夏が過ぎていった。読経を聞きながら、改めて、「もう両親には会えないんだなあ」なんてぼんやり考えると同時に、「両親より先に逝く親不孝者にはならなかったなあ」なんてことを考えていた。

突然の告白だが、中学2年の終わり頃、耳の下あたりが膨れ始めた。触れても痛みはなく、体の不調も感じない。少しずつ膨らみが大きくなり、両親も「一度病院で診てもらおう」と。時が経ち、成人式の日に、両親が泣きながら伝えてくれたのは、「実はあの時、余命半年の診断を告げられてたんだよ」と。

「あー、だから当時はまだ一般的ではなかった注射を毎週、両親が俺にしていたのね」

「入院中なのに修学旅行に行かせてくれたのね」

「普段喧嘩ばかりしていた姉が気持ち悪いぐらい優しくなっていたのね」

「今日まで食事制限がずっと続いているのはそういうことね」など、

それまで感じていた全ての違和感と不思議なことに、合点がいった。後日、当時の担当医（今も現役！）に親から伝えられたことを話したら、「今も病院にホルマリン漬けて保管しているよー」と。苦笑いの中、当時の医師や看護師さん達が気を遣ってくれていたことを昔話をしてくれた。

その日から「生きる」ということについて、私の中の価値観が良くも悪くも変わった。もしかしたら15歳で人生終わっていたかもしれない私が、奇跡的に57歳の今日まで生きてこられてラッキーということである。まさに「生きてるだけで、めっけもん（そのおかげ?）」で、自分で言うのもなんだが、たいていのことには動じない。何か仕事でミスをして、命までは取られないから」と開き直る癖が身に付いてしまった（私自身、非常によろしくないのだが……）。

治療の副作用で、子供ができないかもしれないのに、承知の上で結婚してくれた妻、それなりの社会人に育ててくれた周囲の方々、普通が普通でないことに気付かせてくれた親友、多くの方々に『感謝』である。それなのに、煙草を止めないこの私。まあ、それなりに、これからもぼちぼち生きていこうかな。ただ、それなりの苦労は受け止めながら（笑）

「学習者主体の授業」実現プロジェクト

本県で推進している「学習者主体の実現プロジェクト」は、今年で3年目を迎えました。大隅地区では、志布志市立宇都中学校区がモデル校区に、以下の四つの中学校区が実践校区に指定され、小・中学校で連携を図りながら取組を進めています。

【モデル校区】

志布志市立宇都中学校区

【実践校区】

鹿屋市立田崎中学校区、曾於市立財部中学校区、大崎町立大崎中学校区、南大隅町立第一佐多中学校区

本プロジェクトの特徴は、子供の学びの事実を出発点とする授業研究にあります。教師がどのように指導したかだけではなく、子供一人一人の具体的な学びの姿を丁寧に捉え、目指す資質・能力の育成につながっていたかという視点から授業を捉え直していきます。また、このような子供の学びの事実を基に授業を見つめ直す過程そのものについて、参加者一人一人が主体的に学ぶ機会とすることも、本プロジェクトが大切にしていることの一つです。

次期学習指導要領改訂の柱として、「主体的・対話的で深い学びの実装」が示されています。「研修者主体」の授業研究を通して、教員自身が主体的・対話的に学び、子供観や授業観を更新していくことが、授業改善を促し、「学習者主体の授業」の実現につながっていきます。



地区研究協力校公開（南小）

6月26日（金）、鹿屋市立南小学校において地区小学校道徳教育研修会が開催されました。大隅地区研究協力校、鹿屋市研究協力校研究公開を兼ねていたこともあり、管内小・中学校から約100名の先生方の参加がありました。

3・4年生が「公正・公平、社会正義」、5・6年生が「感動、畏敬の念」について研究授業を行い、児童は、道徳的価値について、自分自身との関わりや過去の経験を基に、自分なりの問いをもち、積極的に考えを表現しながら、よりよい生き方について考えを深めていました。研究協議では、価値理解に迫る良質な問いやICT活用、小規模校における交流の在り方等、活発に意見交換が行われました。

南小学校においては、現在も研究を継続し、他学年でも研究授業を行っています。



曾於・肝属地区スポーツ大会

6月13日（土）から7月20日（月）にかけて、基準日となる土日を中心に、第78回県民スポーツ大会に係る曾於地区、肝属地区スポーツ大会が開催されました。曾於地区21競技、肝属地区24競技について、大隅半島広域の各会場で熱戦が繰り広げられました。競技によっては、地区内学校職員が選手として活躍していました。

本地区大会の結果により、9月19日（土）から開催される第78回県民スポーツ大会に各競技からそれぞれの地区代表が参加します。

各競技代表の選手及び関係者の皆様、地区代表として存分に力を発揮してください。



地区フレッシュ研修研究授業研修（教科）

大隅地区フレッシュ研修「研究授業研修（教科）」を、7月2日（木）に野神小学校及び志布志中学校、3日（金）に寿北小学校で実施しました。

授業研究では、児童生徒の具体的な姿を基に、授業づくりで大切にしたいことについて協議しました。

研修を通して初任者は、自らの授業を振り返り、今後の授業改善に生かしたいことを具体的に考えることができていました。



地域が育む「かごしまの教育」県民週間

令和8年度「かごしまの教育」県民週間表彰受賞者（校）

【ポスター原画】

特選 福留 源太（曾於市立菅牟田小学校）

【標語】

最優秀賞 堂蘭 涼和（鹿屋市立吾平小学校）

特選 丸山 夏帆（鹿屋市立西原小学校）

学校賞 鹿屋市立吾平小学校

志布志市立有明小学校

毎年11月1日～7日は「地域が育む『かごしまの教育』県民週間」として設定されています。当該期間を含む前後約3週間にわたり、自由参観や学校を開放しての多彩な行事が行われます。ぜひ地域の学校の行事等に御参加いただき、子供たちのいきいきと学ぶ姿を御覧ください。また、学校・家庭・地域がつながり、子供たちの成長を共に支えていく機会としていただければと思います。

「少年の主張」を学びの機会に

今年度の「少年の主張」は、応募校数・応募数ともに前年度を上回り、取組総数も705点となりました。作文募集としてだけでなく、学級活動やキャリア教育、校内発表など、日頃の教育活動と関連付けて取り組む学校が増えたことも要因の一つと考えられます。

また、県大会では、右表のとおり発表者10人のうち大隅地区から3人が選出されました。生徒が自分の考えや思いを見つめ、言葉にして伝える機会の充実が、こうした成果にもつながっています。

	令和8年度
応募校数	10校
応募数	14点
取組総数	705点
県大会発表者	3人

賞	名前	学校	題名
優秀賞	友岡 美彩	鹿屋市立鹿屋中学校	本に触れる意味
優良賞	岩坂 グエン	志布志市立志布志中学校	日本とベトナムのために
優良賞	松谷 和奏	鹿屋市立高隈中学校	自分には何ができるのか

子供と向き合う時間、確保できていますか？

業務改善は、教職員一人一人が業務を見直す「自助」と、学校が組織的に支え合い工夫する「共助」を積み重ねることから始まります。単に仕事の量を減らすことが目的ではありません。生み出された時間や心の余裕を、子供と向き合う時間の確保につなげ、教育の質の維持・向上を図ることが大切です。そして、心に余裕をもって職務に向き合うことは、冷静な判断や適切な対応につながり、服務規律の厳正確保にも資するものです。まずは一人一人が業務を振り返り、学校全体で話し合いながら、できることから一つずつ見直し、実践していきましょう。



- ☐ 前例踏襲で続けている業務はありませんか
- ☐ 「変えられる方法」を話し合っていますか
- ☐ 明日から見直せることが一つありますか

全国学力・学習状況調査結果から

地区の学力の状況

右は、令和8年度全国学力・学習状況調査における全国・県の平均正答率と、大隅地区の結果を整理したものです。地区平均は、各校種・学年において全国及び県の平均を下回っているものの、小学校では改善の様子が見られる結果となりました。

各学校において調査結果を分析する際には、平均正答率やIRTスコアのみに着目するのではなく、個々の問題や領域等から学習指導上の課題を把握・分析するとともに、教科に関する意識や学習活動等に係る質問調査の結果を関連付けて総合的に捉え、児童生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることが重要です。

学力調査		正答率	
		小学6年	中学3年
国語	地区	58	57
	県(公立)	61	62
	全国(公立)	60.9	63.9
算数 数学	地区	51	46
	県(公立)	55	52
	全国(公立)	56.4	57
英語	地区		451
	県(公立)		476
	全国(公立)		499

中学校英語はIRTスコア

各教科の結果から

以下には、地区の結果から見られた各教科における課題の一例と、授業改善に向けた具体的な手立てを示しています。各学校においても同様の視点で分析し、課題の要因を日常の授業と結び付けて捉え、具体的な授業改善へと確実ににつなげていくことが重要です。

【地区の課題(小学校)】

問題番号	問題の概要	正答率		
		地区	県	全国
3三(1)	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる。	48.3	52.4	55.5

【授業改善に向けた具体的な手立て】

目的に応じて必要な情報を見付ける力を育成するためには、児童が必要なる情報を選択してその理由を説明したり、見付けた情報を根拠として自分の考えを形成・表現したりするといった、必然性のある言語活動を位置付けることが重要です。

- ☑ 目的に応じて必要な情報を見付ける必然性のある言語活動を設定していますか。

【地区の課題(中学校)】

問題番号	問題の概要	正答率		
		地区	県	全国
2一	目的や場面に応じて、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。	57.9	64.0	68.5

【授業改善に向けた具体的な手立て】

目的や場面に応じて、伝え合う内容を検討する力を育成するためには、話し合いの目的や手順等を確認・共有する場を意図的に位置付けるとともに、少人数で話し合う場を設定するなど話し合いの形態を工夫することが重要です。

- ☑ 話し合いを行わせる際には、生徒が「何のために話し合うのか」という目的を自覚する学習過程を設定していますか。

【地区の課題(小学校)】

問題番号	問題の概要	正答率		
		地区	県	全国
2(4)	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる。	21.4	26.5	34.2

【授業改善に向けた具体的な手立て】

基準量と割合から比較量を捉える力を育成するためには、基準量と比較量の関係を図に表したり、基準量の何倍に当たるかを比較したりする活動を位置付けることが重要です。

- ☑ 基準量を基に1倍、1.5倍、2倍、2.5倍に当たる量を図で表し、比較量との関係を説明する活動を行っていますか。

【地区の課題(中学校)】

問題番号	問題の概要	正答率		
		地区	県	全国
8(2)	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。	25.6	32.2	46.1

【授業改善に向けた具体的な手立て】

事柄の成り立つことを証明する力を育成するためには、証明の方針を立て、仮定と結論を明確にして筋道立てて証明するとともに、自分や他者の証明を振り返り、推論の過程や根拠の妥当性を考察する活動を位置付けることが重要です。

- ☑ 結論を根拠として用いないことを意識させたり、図形の性質や既習事項を根拠として用いているかを確認したりする場面を設定していますか。

【地区の課題(中学校)】

問題番号	問題の概要	正答率		
		地区	県	全国
10(2)	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。	33.8	45.0	47.5

【授業改善に向けた具体的な手立て】

社会的な話題について要点を捉える力を育成するためには、I think ~、We should ~など、筆者の考えや主張を示す表現に着目するとともに、because ~から理由、for example ~から具体例を捉え、主張とそれを支える情報を整理する活動を位置付けることが重要です。

- ☑ 自分の立場と理由を「話すこと(やり取り)」→「書くこと」活動につなげていますか。

令和8年度
全国学力・学習状況調査報告書

「報告書」には、「授業アイデア例」等が記載されています。積極的に御活用ください。



小学校国語



小学校算数



質問調査



中学校国語



中学校数学



中学校英語